

ポートフォリオを用いた看護統合実習における学生
の実習目的達成への影響

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-02-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鶴間, 百合子, 吉田, 幸子, TSURUMA, Yuriko, YOSHIDA, Sachiko メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.50818/00000037 |

【実践報告】

ポートフォリオを用いた看護統合実習における 学生の実習目的達成への影響

Effect of Portfolio Use on Study Goal Achievement of Students in
Integrated Nursing Practice

鶴間 百合子¹⁾ 吉田 幸子²⁾
Yuriko TSURUMA Sachiko YOSHIDA

要 旨

限られた実習環境の中で学生が主体的に学び、実習目的を達成し卒業後も学び続けていける自己教育力を高められるよう、看護統合実習（小児）「看護管理・チーム医療」にポートフォリオとラベルワークを取り入れた。実習終了後学生による自己評価の基準を明確にするためループリックを用いてアンケートを作成し再度自己評価するとともに、ポートフォリオやラベルワークがその評価に影響した場合はどのように影響したかを調査した。ポートフォリオの影響のみに焦点を当て分析を行った結果、ポートフォリオを取り入れたことによる学びの過程が明らかになり、実習目標によって直接的な影響を受けるものと受けないものがあることがわかった。

キーワード：ポートフォリオ，統合実習，ループリック，自己評価

I. はじめに

統合実習は、臨床との乖離を減らすため、「複数の患者を受け持ち、一勤務帯を通した実習を行うこと、また、夜間の実習も可能な範囲で実践するなど、臨床実践の中で必要な基礎的な知識と技術を統合的に体験すること」と看護実践力の向上に主眼を置いたカリキュラム改正により2009年に設定された¹⁾。本学では「看護統合実習」と科目立てをし、各看護学で学んだ内容を臨床実践の中で必要な基礎的な知識と技術を領域ごとで統合的に体験できるようになっている。小児領域を選択した学生たちは、看護統合実習の目的2「看護管理者の役割を知る、一勤務帯を通しての実習、複数患者（対象者）受け持ちを見学・体験をすることで、看護チームの一員として行動するために必要な看護実践能力の基盤をつくる。」に対して実習先の指導體制により、看護部オリエンテーション（1時間程度）、病棟師長から看護管理についての説明（1時間程度）、離れた場所からの日勤リーダー業務見学（3時間）、学生指導者へのシャドーイング

（6時間）を通して実習目的を達成していく。このような短い時間や実習方法に条件がある中、受け身での聴講や見学では目的を達成できない怖れがある。また、短い時間、1回だけの実習では個人での学びに限界があると考えた。

そこで看護統合実習の目的を達成でき、卒業後も主体的に学んでいける自己教育力を高められるよう学習のプロセスや学びの深さを学生自身が客観的に俯瞰でき評価できるポートフォリオを取り入れ看護統合実習を行った。その結果、実習終了後の評価面接では、達成感や学びの深まり今後の課題などについて学生から聞くことができ、自己評価からは実習目的が達成されたことは把握できたが、ポートフォリオを取り入れたことが実習目的達成に影響したかについては明らかではなかった。ポートフォリオを用いたことによる影響を明らかにすることで、短期間で制限がある看護統合実習において実習目的を達成するための効果的なポートフォリオの活用方法につながると考えられた。

¹⁾ 女子栄養大学大学院栄養学研究科

²⁾ 東都医療大学ヒューマンケア学部看護学科

II. 目的

1. ポートフォリオを取り入れたことによる実習への影響を明らかにする。
2. ルーブリックを用いて更に具体的な行動レベルでの自己評価より、目標達成へのポートフォリオの影響を明らかにする。
3. ポートフォリオが実習目的達成にどのように影響したのかを明らかにする。

III. 研究方法

1. 研究デザイン：質的帰納的研究

2. 対象および期間

対象：A 大学看護学科 4 年生，看護統合実習（小児）を終了した学生 5 名

期間：平成 26 年 11 月～平成 27 年 2 月

3. 実習展開の方法

- 1) 看護統合実習の実習目的 2：看護管理者の役割を知る，一勤務帯を通しての実習，複数患者（対象者）受け持ちを見学・体験をすることで，看護チームの一員として行動するために必要な看護実践能力の基盤をつくる。（以下実習目的と略す。）
- 2) ポートフォリオを用いた実習展開
 - ①実習目的 2 から看護管理とチーム医療について自己の目標（ビジョン）を明確にする。
 - ②自己の目標（ビジョン）を達成したい気持ちが湧くような目標シートを作り記載する。
 - ③教員との面談で自己の目標（ビジョン）を伝え，目標達成のために必要な事前学習を行う。
 - ④看護管理，チーム医療に関する実習を行った際，学びをラベルに記載しポートフォリオに添付して行く。
 - ⑤学生全員が看護管理，チーム医療に関する実習を終了した時点でポートフォリオを持ち寄り，ラベルに書かれた学びについて説明し，同じ内容・関係性からラベルを構造化しグループとしての「看護管理とは」「チーム医療とは」を導き出す。
 - ⑥模造紙にラベルを使い構造化した「看護管理とは」「チーム医療とは」を書く。

⑦⑥を資料とし病棟指導者を交えた最終カンファレンスで発表する。

⑧指定の記録用紙に学びとしてまとめる。

4. データの収集方法

1) 自記式質問紙調査

①看護統合実習目的 2 に対する実習目標 5「病棟における看護管理者の役割について見学を通して理解することができる」，実習目標 6「一勤務帯における複数患者の看護の見学・一部体験を通し，看護チームの一員としての役割を理解することができる」，実習目標 7「一勤務帯（日勤）すべてを体験し臨床の看護業務をイメージ化することができる」についてルーブリックを用いたアンケートにより再度自己評価を行う。

②自己評価にポートフォリオとラベルワークがどのように影響したのかについて理由を記載する。

2) データの分析方法

(1) 実習目標の自己評価をルーブリックでの自己評価の 5, 4, 3, 2 とし，目標達成を点数化する。

(2) 目標達成に影響した理由について意味を損なわないよう文節で取り出しコード化し，コードの意味内容の類似性に沿ってサブカテゴリー化を行い，更に抽象化するためにカテゴリー化する。領域内の教員で検討した後他領域の教員との検討を行い，妥当性が確保されるまで複数回検討を重ねる。

(3) 数値化した目標達成感とポートフォリオ・ラベルワークという学習方法との関係を考察する。

※今回の研究では（1），（2）より，ポートフォリオの影響を分析する。

5. 倫理的配慮

学生に対して，参加の任意性，途中中断の保証と目的以外には使用しないこと，匿名性についてアンケートは本人が特定されないよう無記名とし，成績には一切関係のないことを文書と口頭で説明する。アンケート用紙の提出は 1 階事務局に設置した回収ボックスとし，回収ボックスへの投入をもって同意とする旨を説明した。

また，東都医療大学研究倫理委員会の承認（承認番号 H2618）を得て実施し，研究に使用した資料は，研究終了後破棄する。

IV. 結果

1. ルーブリックによる自己評価とポートフォリオの影響について (表 1)

1) 実習目標5「病棟における看護管理者の役割について見学を通して理解することができる」に対する行動目標1の、ルーブリックによる自己評価の平均は4.8点であった。また、この評価に対してポートフォリオの影響があったと答えた学生は5名中4名であった。

行動目標2の、ルーブリックによる自己評価の平均は5点であった。また、この評価に対してポートフォリオの影響があったと答えた学生は5名中5名であった。

2) 実習目標6「一勤務帯における複数患者の看護の見学・一部体験を通し、看護チームの一員としての役割を理解することができる」に対する行動目標1の、ルーブリックによる自己評価の平均は5点であった。また、この評価に対してポートフォリオの影響があったと答えた

た学生は5名中2名であった。

行動目標2の、ルーブリックによる自己評価の平均は4.6点であった。また、この評価に対してポートフォリオの影響があったと答えた学生は5名中1名であった。行動目標3の、ルーブリックによる自己評価の平均は4.8点であった。また、この評価に対してポートフォリオの影響があったと答えた学生は5名中4名であった。

3) 実習目標7「一勤務帯(日勤)すべてを体験し臨床の看護業務をイメージ化することができる」に対する行動目標1の、ルーブリックによる自己評価の平均は3.8点であった。また、この評価に対してポートフォリオの影響があったと答えた学生は5名中0名であった。

行動目標2の、ルーブリックによる自己評価の平均は4.4点であった。また、この評価に対してポートフォリオの影響があったと答えた学生は5名中4名であった。

表 1. ポートフォリオを取り入れたことによるルーブリックでの自己評価

| 実習目標 | 行動目標 | ルーブリックによる評価 (学生別) | | | | | 平均 | ポートフォリオの影響があった |
|---|--|-------------------|------|------|------|------|-----|----------------|
| | | 学生 A | 学生 B | 学生 C | 学生 D | 学生 E | | |
| 5. 病棟における看護管理者の役割について見学を通して理解することができる | 1. 病棟における看護管理者の役割を見学を通して理解する | 4 | 5 | 5 | 5 | 5 | 4.8 | 4名 |
| | 2. 学んだことを他者に分かるように発表できる | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5名 |
| 6. 一勤務帯における複数患者の看護の見学・一部体験を通し、看護チームの一員としての役割を理解することができる | 1. 複数の患者を受け持っている看護スタッフと共に行動(一部)することで看護チームの一員としての役割を理解できる | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 2名 |
| | 2. 複数の患者を受け持っている看護スタッフと共に行動(一部)することで優先順位を考えた業務について学ぶことができる | 4 | 4 | 5 | 5 | 5 | 4.6 | 1名 |
| | 3. 学んだことを他者に分かるように発表できる | 5 | 5 | 4 | 5 | 5 | 4.8 | 4名 |
| 7. 一勤務帯(日勤)すべてを体験し臨床の看護業務をイメージ化することができる | 1. 一勤務帯のすべてを体験することで臨床勤務のイメージ化ができる | 5 | 3 | 3 | 3 | 5 | 3.8 | 0名 |
| | 2. 学んだことを、所定の用紙に記述し発表できる | 5 | 4 | 5 | 4 | 4 | 4.4 | 4名 |

2. ポートフォリオが目標達成に影響した理由について
(表2)

目標達成に影響した理由について内容分析を行った結果、34のコードを取り出した。そのコードから、＜事前学習になった＞＜事前学習を活かした実習＞＜発見・学び・疑問をまとめられる＞＜分からないことを調べ学んだことを積み重ねる＞＜考えながら主体的に学ぶ＞＜まとめることで知識が深まる＞＜何を学んだかがわかる

＞＜学んだことを自分で見直すことができる＞＜学びのかたまり＞＜考えや学びを他者に分かりやすく表現できる＞＜事前学習やまとめたことをラベルワークに活用＞という11のサブカテゴリーが抽出できた。そして、11のサブカテゴリーからは＜効果的な事前学習＞＜主体的な学習＞＜学びの確認＞＜学びの共有＞という4つのカテゴリーが抽出できた。また、これらは実習前、実習中、実習後という実習の経過に沿って分類できた。

表2. ポートフォリオが目標達成に影響した理由の内容分析

| カテゴリー | サブカテゴリー | コード |
|----------|-----------------------|--|
| 効果的な事前学習 | 事前学習になった | ・作成することが事前学習 ・事前に調べたり文献を読んだ ・事前に学びたいことをまとめた |
| | 事前学習を活かした実習 | ・だいたいのことを把握したうえで病院や看護師長からの話を聞くことができた ・事前学習を踏まえて見学できた ・ポートフォリオとして示すことで観察したことを理解へとつなげられた ・事前に学びたいことをまとめたことで、より明確な学習へとつながった |
| 主体的な学習 | 発見・学び・疑問をまとめられた | ・日々の小さな発見などをこまめにまとめられた ・自分で観察したことをまとめられた ・自分で学んだことをファイルするので自分の学びもまとまっている ・自分の考えや疾患、看護の学びをまとめておくことができた ・こまかなわからない点を何でもどんどんファイリングしていくことが出来た |
| | 分からないことを調べ学んだことを積み重ねる | ・資料を見たりした ・分からない点を調べ、学んだものをどんどん入れて積み重ねることが出来た |
| | 考えながら主体的に学ぶ | ・良い学びができるのか、考えながら作成することができた ・大きな規定がなく自分が調べ学んだことを自由にファイリングしていくことができたのでとても自主的に学ぶことが出来た |
| | まとめることで知識が深まる | ・自分で知ったことをファイリングし、知識を深められた ・理解したことをまとめることで理解を深めることができた |
| 学びの確認 | 何を学んだかがわかる | ・スタッフはお互いに協力する、患者を中心とした看護をするなど、スタッフとして必要なことを学ぶことができた ・自己の学びや課題がとても明確になった |
| | 学んだことを自分で見直すことができる | ・自分が学んだことを見てすぐにわかる ・ポートフォリオを見ると自分で学んだことを見直すことができた ・学んだことを時間が経っても見返すことで思い出すことができた |
| | 学びのかたまり | ・終わった時には実習をやり通した道となった ・まとめていくことで最後には良い参考資料となった ・やったことが目で見てわかるため達成感にもつながった |
| 学びの共有 | 考えや学びを他者にわかりやすく表現できる | ・自分の考えや疾患、看護の学びをまとめておくことで、他者にわかりやすいように発表をすることができた ・自分が学んだことを見てすぐにわかるので発表しやすい ・ポートフォリオにまとめることで、自分の中で発表しやすくなった ・ポートフォリオを見ると自分で学んだことを見直すことができ、発表しやすい ・自分の学びもまとまっているので、学びを記述するのに役に立った ・記録用紙を書くに当たり、ポートフォリオにまとめたことを参考にすることができた |
| | 事前学習やまとめたことをラベルワークに活用 | ・事前に調べていた文献を参考にしてラベルに名前をつけまとめた ・事前に調べておいた文献を参考にしてラベルに名前をつけた |

V. 考察

1. ポートフォリオを取り入れたことによる実習への影響

1) 効果的な事前学習

学生はポートフォリオを「作成することが事前学習」ととらえ、「事前に学びたいことをまとめた」と何を学びたいかを意識してポートフォリオを事前学習として作成している<事前学習になった>。そして、「事前学習を踏まえて見学できた」「事前に学びたいことをまとめたことで、より明確な学習へとつながった」とあるように事前学習として作成したポートフォリオを実習に活用していることから<事前学習を活かした実習>、ポートフォリオを取り入れたことで<効果的な事前学習>ができており、「ポートフォリオとして示すことで観察したことを理解へとつながられた」とあるように学生自身も事前学習を行うことが実習での学びにつながることを確認できている。

2) 主体的な学習

「日々の小さな発見などをこまめにまとめられた」「自分で学んだことをファイルするので自分の学びもまとまっている」「こまかなわからない点を何でもどンドンファイリングしていくことが出来た」とあるように、学生は実習中、様式や形式にこだわらずその都度ポートフォリオに

ファイリングしている<発見・学び・疑問をまとめられた>。そして、ポートフォリオに事前学習もファイリングしてあるため、<分からないことを調べ、学んだことを積み重ねる>ことができている。また、「考えながら作成することができた」「自分が調べ学んだことを自由にファイリングしていくことができたのでとても自主的に学ぶことが出来た」とあるように実習中ポートフォリオへのファイリングが進んでいくことにより<考えながら主体的に学ぶ>ようになっており、「自分で知ったことをファイリングし、知識を深められた」「理解したことをまとめることで理解を深めることができた」とある。実習での学びなどをファイリングしたりまとめたりすることで<まとめることで知識が深まる>ことを実感していることから、学生たちはポートフォリオを使い<主体的な学習>をしておりそれが達成感にも繋がっていると考えられる。

3) 学びの確認

「ポートフォリオを見ると自分で学んだことを見直すことができた」「自己の学びや課題がとても明確になった」とあるように、学生たちはポートフォリオを俯瞰し自分自身で学びを確認しく学んだことを自分で見直すことができる<何を学んだかがわかる>、そこから課題を見出している。「やったことが目で見てわかるため達成感にもつながった」「終わった時には実習をやり通した道となった」とあることからポートフォリオに実習での学びの全てが入っており<学びのかたまり>、ポートフォリオを見ることで<学びの確認>をしており、<学びの確認>ができることが実習の達成感へとつながったといえる。

4) 学びの共有

「ポートフォリオを見ると自分で学んだことを見直すことができ、発表しやすい」「自分が学んだことを見てすぐにわかるので発表しやすい」ポートフォリオには実習前に行った事前学習から、実習中のプロセスや学びが全て入っているため、<考えや学びを他者にわかりやすく表現できる>。そして、ラベルワークでも「事前に調べていた文献を参考にしてラベルに名前をつけまとめた」とあるように、自身の学びを他者に伝えるためにポートフォリオの中にある事前学習を活用している。これらのことからポートフォリオを実習後の<学びの共有>にも活用しているといえる。

5) ポートフォリオを取り入れたことによる学びの過程

図1は看護統合実習(小児)にポートフォリオを取り入れたことによる学びの過程を示している。サブカテゴリーとカテゴリーの関連から、学生は実習前、実習中、実習後とポートフォリオを活用し学んでいることがわかる。ま

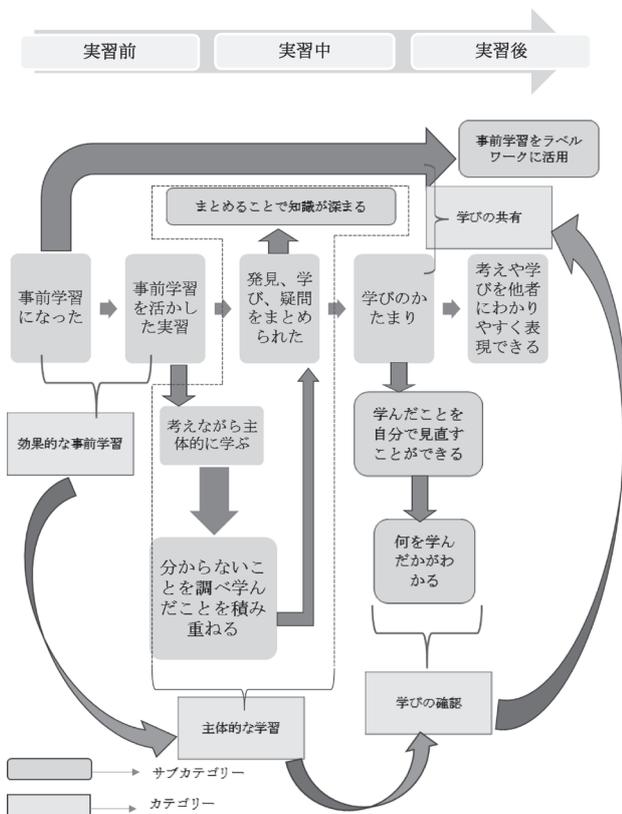


図1. 看護統合実習(小児)にポートフォリオを取り入れたことによる学びの過程

た、その学びは断続的なものにとどまらず、継続的に関連させてポートフォリオを活用し学んでいると考えられる。

学生はポートフォリオで〈効果的な事前学習〉を行い、それを基に実習中〈主体的な学習〉をしている。〈主体的な学習〉により実習したことにより〈学びの確認〉ができ、効果的な〈学びの共有〉へとつながっていると考えられる。そして、実習後にポートフォリオを活用した〈学びの共有〉については、鈴木が「ポートフォリオには関連やプロセスの全体が入っていますからコンピテンシーが見出しやすいのです。」²⁾と述べているように、実習のプロセスや学びと援助の関連が入ったポートフォリオを俯瞰し〈学びの共有〉を行うことで、実習で得た断続的な学びと援助を関連させて知識として使用している。これは目標を立て必要な学習を行い、実践し、その成果を含めたプロセスや関連を用いて共有していることを示している。

2. ルーブリックでの自己評価によるポートフォリオの影響

ルーブリックでの自己評価の平均は「一勤務帯のすべてを体験することで臨床勤務のイメージ化ができる」が3.8点であるが、それ以外の行動目標で4点以上となっている。ルーブリックでは評価基準を満たし、且つ発展的学習を設定する。今回の評価では5点がそれに当たる。このことから学生たちはほぼ全ての行動目標で評価基準を満たしており、実習目標を達成し実習目的を達成したといえる。その中でも半数以上の学生がポートフォリオを取り入れたことによる影響があったとしているのは、実習目標5の行動目標「病棟における看護管理者の役割を見学を通して理解する」「学んだことを他者に分かるように発表できる」と、実習目標6の行動目標「学んだことを他者に分かるように発表できる」及び、実習目標7の行動目標「学んだことを、所定の用紙に記述し発表できる」であった。これは、実習のプロセスや学びの全てが入ったポートフォリオだからこそ〈学びの確認〉ができるため、事前学習をもとに実習で得た知識を活かして表現に使ったり、説明したりすることで〈学びの共有〉を行えたためではないか、ポートフォリオを活用し実習ができていたため高い評価になったのではないかと考える。

3. ポートフォリオを取り入れたことによる学生の実習目的達成への影響

1) 実習目標5「病棟における看護管理者の役割につい

て見学を通して理解することができる」について

ルーブリックによる自己評価の平均は行動目標1「病棟における看護管理者の役割を見学を通して理解する」が4.8点、行動目標2「学んだことを他者に分かるように発表できる」が5点であった。また、学生の半数以上がルーブリックの自己評価に当たりポートフォリオを実践したことが影響したと答えた。このことから、実習目標5についてはポートフォリオを取り入れたことにより実習目標達成につながったといえる。

2) 実習目標6「一勤務帯における複数患者の看護の見学・一部体験を通し、看護チームの一員としての役割を理解することができる」について

ルーブリックによる自己評価の平均は行動目標1「複数の患者を受け持っている看護スタッフと共に行動(一部)することで看護チームの一員としての役割を理解できる」が5点、行動目標2「複数の患者を受け持っている看護スタッフと共に行動(一部)することで優先順位を考えた業務について学ぶことができる」が4.6点、行動目標3「学んだことを他者に分かるように発表できる」が4.8点であった。また、学生の半数以上がルーブリックの自己評価に当たりポートフォリオを実践したことが影響したと答えた行動目標は、行動目標3「学んだことを他者に分かるように発表できる」だけであった。このことから、実習目標達成はできたがポートフォリオを取り入れたことによる影響は実習目標達成の全体には影響せず、学びの発表に限られたものであるといえる。この要因としてポートフォリオには看護チームについての事前学習よりもチーム医療についての事前学習が多かったためであることが考えられる。また、看護チームの一員からチーム医療についてまで学んでもらいたいという考えから、担当教員の事前学習の指示がチーム医療を重視したものであったことが影響しているのではないかと考えられる。この要因以外についても今後の研究にて明らかにしていく必要がある。

3) 実習目標7「一勤務帯(日勤)すべてを体験し臨床の看護業務をイメージ化することができる」について

ルーブリックによる自己評価の平均は、行動目標1「一勤務帯のすべてを体験することで臨床勤務のイメージ化ができる」が3.8点、行動目標2「学んだことを所定の用紙に記述し発表できる」が4.4点であった。また、学生の半数以上がルーブリックの自己評価に当たりポートフォリオを実践したことが影響したと答えた行動目標は、行動目標2「学んだことを所定の用紙に記

述し発表できる」だけであった。行動目標1「一勤務帯のすべてを体験することで臨床勤務のイメージ化ができる」については学生全員がポートフォリオを取り入れたことによる影響はないとしている。このことから学んだことを記述し発表はできるが、臨床勤務のイメージ化に関してはポートフォリオによる影響はないということが分かった。この要因以外については今後の研究にて明らかにしていく必要がある。

VI. まとめ

今回、看護統合実習においてポートフォリオを取り入れたことにより、ポートフォリオが実習にどのように影響しているのか、また、学生の実習目的達成への影響について明らかになった。

1. ポートフォリオを実習に取り入れたことによる影響について、次の4点が明らかになった。

- 1) ポートフォリオを効果的な事前学習として活用している。
- 2) ポートフォリオにより主体的な学習を行い、学びを確認している。
- 3) 実習前、実習中、実習後とポートフォリオを活用し断続的な学びを継続的に関連させて学んでいる。

2. 看護統合実習においてポートフォリオを取り入れたことによる学生の実習目的達成への影響について、実習目標に沿って分析した結果次の3点が明らかになった。

- 1) 実習目標5については、ポートフォリオを取り入れたことにより目標達成につながる。
- 2) 実習目標6については、ポートフォリオを取り入れたことが実習目標達成に直接的には影響しない。
- 3) 実習目標7については、ポートフォリオを取り入れたことが実習目標達成に直接的には影響しない。

VII. 結論

看護統合実習(小児)にポートフォリオを用いたことにより、実習前から実習終了後までポートフォリオを継続的に活用し主体的な学びをしていた。看護統合実習(小児)で主体的に学び自己教育力を高めるには適した実習方法であると考えられる。ただ、実習目標達成への影響からポートフォリオだけで、直接的に実習目的達成へ影

響したとはいえない。しかし、ポートフォリオには実習のプロセスや学びが全て入っており、いつでも確認することができる。そのため実習で学んだことや考えの表現に使ったり、説明したりすることにポートフォリオを活用することによって、ルーブリック評価による「発展的学習ができた」につながっていることから考えると、直接的ではないが実習目的達成に影響したと考えられる。今後は明らかになったポートフォリオの影響を基に効果的な使用を検討することが必要である。

文献

- 1) 厚生労働省：看護基礎教育の充実に関する検討会報告書。2009
- 2) 鈴木敏恵：目標管理はポートフォリオで成功する。メヂカルフレンド社；p44, 2008.

受理日：2016年2月8日

資料 1. 看護統合実習（小児）評価の基準（ルーブリック）

| | 評価項目 | S | A | B | C |
|-----------------------|--|--|---|---|--|
| 実 習 目 標 5 | 1. 病棟における看護管理者の役割を見学を通して理解する | 病棟における看護管理者から病院における看護管理へと発展した学習ができています。 | 病棟における看護管理者の役割についてカンファレンスで発言することができ記録できる。 | 病棟における看護管理者の役割についてカンファレンスで発言することができる。 | 病棟における看護管理者の役割について発言できない。 |
| | 2. 学んだことを他者に分かるように発表できる | 個人だけでなくグループ間の学びとして視覚的資料を用い発表できる。 | 個人で視覚的な資料を使い、さらに学んだことから発展させて発表できる。 | 個人で視覚的な資料を使い学んだことを発表できる。 | 学んだことを口頭では発表できるが視覚的な資料はない。 |
| 実 習 目 標 6 | 1. 複数の患者を受け持っている看護スタッフと共に行動（一部）することで看護チームの一員としての役割を理解できる | 看護スタッフと行動し看護チームの一員としての役割からチーム医療について考えカンファレンスで発言することができ記録できる。 | 看護スタッフと行動し看護チームの一員としての役割についてカンファレンスで発言することができ記録できる。 | 看護スタッフと行動し看護チームの一員としての役割についてカンファレンスで発言することができる。 | 看護スタッフと行動しているが、看護チームの一員としての役割についてカンファレンスでの発言も記録することもできない。 |
| | 2. 複数の患者を受け持っている看護スタッフと共に行動（一部）することで優先順位を考えた業務について学ぶことができる | 複数の患者を受け持っている看護スタッフの行動の理由を優先順位の視点と看護チームの一員としての視点から説明できる。 | 複数の患者を受け持っている看護スタッフの行動の理由を優先順位の視点から説明できる。 | 複数の患者を受け持っている看護スタッフの行動の理由を説明できる。 | 複数の患者を受け持っている看護スタッフの行動について、何をしてきたかは説明できるが、その理由については説明できない。 |
| | 3. 学んだことを他者にわかるように発表できる | 個人だけでなくグループ間の学びとして視覚的資料を用い発表できる。 | 個人で視覚的な資料を使い、さらに学んだことから発展させて発表できる。 | 個人で視覚的な資料を使い学んだことを発表できる。 | 学んだことを口頭では発表できるが視覚的な資料はない。 |
| 実 習 目 標 7 | 1. 一勤務帯のすべてを体験することで臨床勤務のイメージ化ができる | 臨床勤務のイメージについて体験から5つ以上言語化でき、働きたいと考えられる。 | 臨床勤務のイメージについて体験から5つ以上言語化できる。 | 臨床勤務のイメージについて体験から3つ～4つ言語化できる。 | 臨床勤務のイメージについて体験から2つ以下しか言語化できない。 |
| | 2. 学んだことを所定の用紙に記述し発表できる | 学んだことを発表し、記録用紙に整理して記述することで自身の臨床勤務を具体的に考えられる。 | 学んだことを発表し、記録用紙に整理して記述できる。 | 学んだことを発表し、記録用紙に記述できる。 | 学んだことを発表できるが、記録用紙に記述できない。 |

※本学（小児看護学領域）における評価基準の点数化

S：5 A：4 B：3 C：2